

Contents

- ・【巻頭エッセー】魔法のトビラ … 長島剛子 ●表紙
- ・ Welcome to our Library ●2～3
- ・【修論報告】
ナラティブ分析によるボリス・ヴィアン作品の研究
… 衛博 ●4～5
- ・風景の中で④ … 図書館長 井上郷子 /
資料の部屋④ … 高橋京子 ●6
- ・ 2019 年度ばるらんど総目次 ●7
- ・ Information ●8

Parlando

ばるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No. 306

【巻頭エッセー】魔法のトビラ

長島 剛子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから4年間素晴らしい時間が過ごせることを願っています。

さて私もかつてここで学びました。沢山の思い出は短い紙面では語りつくせませんが、その中で図書館はいつも私の小さな知的好奇心を満たすべく、キャンパスの一番奥に静かにたたずみ魔法の扉を開いていました。

入学してしばらく経った頃、図書館である歌曲の楽譜を探しました。中学生の頃初めて買ったレコードで、エリー・アメリカンというソプラノ歌手が歌うオランダ語の曲でしたが譜面が無く、サビの部分を口ずさむしかなかったのです。「そうだ、図書館にあるかもしれない!」と思い調べてみたところ、程なくその楽譜が見つかりました。すぐに貸出手続きをし、寮のボックスで最初から歌ってみた時の感激はひとしおでした。

また視聴室では毎日のように沢山の録音を聴きました。当時はレコードを借りて自分の部屋でゆっくり聴くことは出来なかったですし、ましてやナクソス等の配信サービスもなかったのです。図書館の視聴室は身近に音楽が聴ける唯一の機会を与えてくれていたのです。声楽曲だけではなくピアノ曲も好きでした。ショパンのレコードを片っ端から聴いては満足していたのですが、だんだん物足りなくなり、実際に弾いてみたくなりました(何と無謀!)。スケルツォ集の楽譜を借り出し、春休みを利用して第1番から練習を始めました。帰省先の札幌の実家で家にいるときは一日中ピアノの前で格闘し、少しだけ弾け

ようになりました。「ピアノばかり聴こえるけど、歌はやめたの?」と母から皮肉を言われ、内緒にしていたのですが、その後軽い腱鞘炎になってしまうほどピアノの練習に夢中になった変わった学生でした。

その後大学院に進み、図書館で慣れない論文作成に奮闘していた時、ある画集⁽¹⁾が目にとまったのです。ページをパラパラめくり、初めて見る抽象画に妙に惹かれました。今まで全く知らなかった世界に私を引きずり込むような不思議な力を持ったその絵は、カンディンスキーという画家の作品でした。それから彼の絵に夢中になり、絵ハガキを集めアパートの小さな部屋に飾り毎日眺めていました。自分の研究テーマであったR.シュトラウスと同時代を生きた画家だったことはその頃はあまり気が付いていなかったのです。その後ヨーロッパに留学しミュンヘンやパリの美術館で本物の絵を見て、彼と親交が深かった作曲家シェーンベルクと新ウィーン楽派の音楽へと興味の対象が広がっていきました。私が現在演奏活動の中心に据えている20世紀歌曲に対する関心は、くにおん時代に始まっていたのです⁽²⁾。

(1) ワッシリー・カンディンスキー / フランソワ・ル・タルガ著
(現代美術の巨匠) 美術出版社 請求番号●R723.019||V

(2) 架空庭園の書: 新ウィーン楽派の歌曲を集めて
ALM Records 請求番号●XD70777

●ながしま たけこ 本学教授(声楽)

Welcome to our Library!

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！晴れて音大生になり、これからはじまる4年間に期待と不安でいっぱいなのではないでしょうか？新しい生活の中でほっと一息つきたい時、ぜひ図書館に来てください。皆さんがより充実した大学生活を送れるように、授業以外の時間も広くサポートしていきます。わからないことがあれば気軽に声をかけてくださいね！

図書館には何がある？

音楽と大学の授業に特化した世界有数の音楽図書館。楽譜だけで約14万点所蔵しています。図書が約14万冊、雑誌約2,600タイトルのほかに、CD約7万点、DVD約5,000点、ブルーレイ、レーザーディスクなど、AV資料も充実しています。「閉架式」といって、資料のほとんどが書庫の中に入っています。また、オンラインデータベースや配信サービスも利用することができます。ベートーヴェンの初期印刷楽譜や、江戸後期から明治初期にかけての邦楽と演劇の歴史において大変重要な竹内道敬文庫などの、特別コレクションも所蔵しています。

2F

4号館正面の階段を上り、ゲートを通って入館します。入った階が2階です。



書庫には普段は入れませんが、新入生の方は基礎ゼミでご案内します。



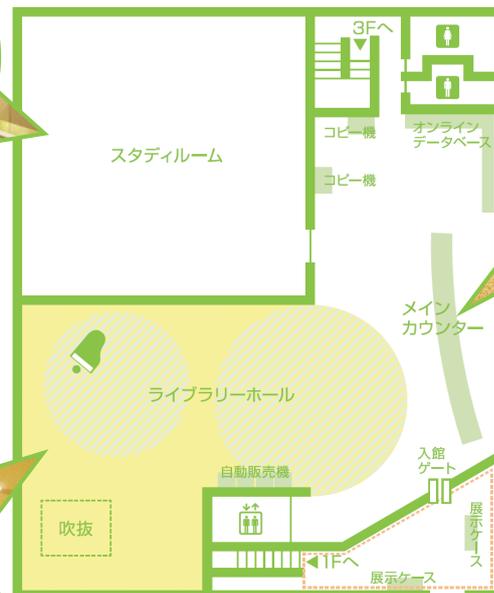
スタディールーム

シラバス本や教職・学芸員の本など学生生活に密着した図書や全集・叢書楽譜があります。PC席・学習席も。



ライブラリーホール

会話可能なエリアで、グループ学習や打ち合わせにも利用できます。蓋付きの飲み物がOKです。雑誌や新着図書・楽譜のコーナーもあります。



メインカウンター

資料の貸出・返却を行います。

資料を借りるには？

フロアにある資料はカウンターで貸出手续をしてください。書庫にある資料はOPACから「配架済み資料を出庫する」ボタンを押してカウンターで受け取ってください。



ドリンクOKエリア
※フタ付きのみ。
※食べ物禁止です。



通話OKエリア

入口

資料を探すには？

OPACで検索します。OPACは図書館の蔵書を検索するシステムです。たくさん使ってマスターしてください。特に楽譜は検索するコツがあります。

図書館に入るには？

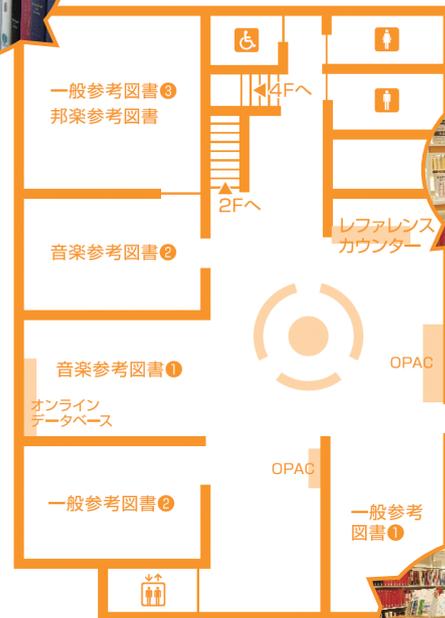
必ず学生証が必要です。忘れると図書館に入れませんので、ご注意ください。



3階は参考図書フロア。予習復習やレポート作成に欠かせない辞典等が並んでいます。学習席もあり、静かに集中して学習することができます。

4階はCD・DVD等のAV資料フロアです。個人視聴卓のほか、3人以上のグループで使えるグループ視聴室もあります。特別な音響設備を備えた大きな視聴室は授業やイベントも行われます。「大学院オペラ」などの学内演奏会や、「公開レッスン」、「基礎ゼミ」はデジタルアーカイブ化され(くにおんアーカイブ)、PCで視聴できます。

3F



3階中央のサークル書架には主題目録など音楽家の参考図書が並んでいます。

4F

AVカウンター

AV資料の貸出・返却を行います。



3部屋あるグループ視聴室は椅子や机のタイプが少しずつ異なります。



通話OK
エリア



ドリンク
OKエリア
※フタ付きのみ
※食べ物は禁止です。

中庭は蓋付き飲み物がOKです。一息ついたときにぜひ。



図書館の使い方応用編！

ILL(図書館間相互貸借)・・・当館にない本も、他の図書館から取り寄せて借りることができます。カウンターで手続きします。

TAC(多摩アカデミックコンソーシアム)・・・国立音楽大学、国際基督教大学、津田塾大学、東京外国語大学、東京経済大学と武蔵野美術大学の6校が加盟する大学協力機構です。加盟大学の図書館を自由に利用できます。こちらもカウンターで手続きできます。

資料が見つからない！

近くの図書館スタッフに遠慮なく声をかけてください。



ルールを守って 楽しい図書館ライフを！

飲食禁止

ペットボトルや水筒など、しっかり蓋のしまるもののみ所定の場所で飲むことができます。食べ物は持ち込み禁止です。

通話禁止

まわりの人の迷惑にならないように、通話は決められた場所です。

コピーは著作権法を守って

図書館資料をコピーする時は著作権法の範囲内で行います。本なら1冊の半分、楽譜は1曲の半分です。必ず複写申込書を記入してください。

また貸し禁止

自分で借りた楽譜を友達に貸すなど、資料のまた貸しは絶対にしないでください。

【修論報告】

ナラティブ分析によるボリス・ヴィアン作品の研究 —文学創作と音楽創作の共通性を中心に—

衛博 (大学院音楽研究科修士課程音楽学専攻2019年度修了)

本研究では、主にヴィアンの文学作品及び彼の音楽作品を研究対象とし、それぞれをナラティブ性の研究の方法論を用いて分析した。

ボリス・ヴィアンは誰？

フランスの作家・詩人ボリス・ヴィアン(Boris Vian, 1920–1959)は『うたかたの日々(L'Écume des jours)』(1946)、『北京の秋(L'Automne à Pékin)』(1947)など前衛的な作風の小説により、第二次世界大戦後すぐにフランスの文壇に確固たる地位を獲得した。また、作品は多くの言語に翻訳され、世界的な名声も得ている。作家、詩人、演奏家、批評家、エンジニアなど様々な肩書きを持っている彼は、天才というより「鬼才」と呼ばれるが、僅か39歳で心臓の病気により死去した。彼の真価は死後、さらに脚光を浴びることになった。文学創作、ジャズ演奏及び私生活について、現在でも大きな関心が寄せられており、これら全ての領域を連結させているヴィアンの思想は今日まで大きな影響力を持っている。

ヴィアンと音楽の繋がり

「作家」の他、ボリス・ヴィアンのもう一つの重要な肩書きは「音楽家」であり、なかんずくジャズの演奏家と批評家である。ジャズ・トランペット奏者であり批評家でもあったヴィアンは、デューク・エリントン(Duke Ellington, 1899–1974)やマイルス・デイヴィス(Miles Davis, 1926–1991)など、パリを訪ねたジャズ演奏家たちとフランスとの橋渡しの存在として活動し、フレンチ・ジャズの発展に重要な役割を果たしている。また、彼はサンジェルマン・デ・プレにあった幾つかのジャズ・バーの運営に関わった。その中でもヴィアンがオーナーとして運営していた「タブー」というバーは、ジャズ演奏家の拠点であると同時に、社交界の名士や知識人の交流の場となった。また、ジャズ批評家として、ヴィアンは戦時中と戦後、二つの時期にまたがって活躍した。その活動は、単なる批評の発表にとどまらず、フレンチ・ジャズについての重要な論争に関わり、フレンチジャズのメインストリームの確立に大きな影響を与え

た。また、戦時中には、出版者・編集者としての活動を利用し、占領軍と表向きは友好的な関係を保ちながら、レジスタンス・連合軍との連絡の役割を担い、密かに抵抗を行っていた。戦後には、彼は音楽の交流に力を注ぎ、同時に先端的な音楽をフランスにもたらした。ジャズだけでなく、ポップ音楽とロックについても同じであり、「ロックをフランスに導入した最初の人物の一人」と称えられることもある。ヴィアンの文学作品と音楽作品はいずれも彼が心血を注いだもので、命をかけて書き上げたものと言っても過言ではない。彼の影響の下に、パリにあるいくつかのジャズバーはジャズ活動の中心としてジャムセッション¹などを常に開催していた。人々はジャズを聴いたり、議論したり、演奏したりし、50年代にヨーロッパはジャズ黄金時代を迎えた。



左から、ミシェル(妻)、マイルス・デイヴィス、ヴィアン ～『ボリス・ヴィアン伝』●J116-898より～

1 本格的な準備や、予め用意しておいた楽譜、アレンジにとらわれずに、ミュージシャン達が集まって即興的に演奏をする活動である。

ナラティヴとは

ナラティヴとは直接に翻訳すれば、物語と話術などと出てくるが、実はナラティヴが含むのは物語の内容だけではなく、また叙述法、語り手、構造、ロジックなどいろいろある。要するに、人々の語りや物語に着目し、その語りを通してなんらかの現象に迫る実践方法というのがナラティヴである。

ナラティヴを応用するのはまたマクロとミクロで区別できる。例えば構造主義のナラトロジー、メタナラティヴはマクロ的で、ナラティヴの下のトピック論、間テクスト性はミクロ的である。

本研究では、構造主義のナラトロジーと間テクスト性から、マクロとミクロの二つの角度、つまり内容と構造からヴィアンの文学創作と音楽創作の共通性を考察していった。

泣くに泣けず、 笑うに笑えないブラックジョーク

研究の結論としての一つ、ブラックジョークは基本的に二つの特徴を含む。一つは現実絶望することであり、もう一つは現実絶望に反対することである。

ヴィアンの文学作品にはブラックジョークの痕跡の深いものが多く残されている。短編小説『蟻』のエンディングでは、地雷を踏んでしまい、仲間を先に行かせ、一人で死を待つ主人公が「私はどうしても足を動かすよ。だって、戦争にもう飽きた。だって、脚が痺れて、蟻が這っているようだ」と文句を言った。彼が死ななければならない理由は「戦争に飽きた」そして「脚が痺れた」からである。前者は戦争に対する抵抗を表す正当の理由であるが、後者はしようもない理由として、人々を笑わせながら絶望感を作り、喜劇で悲劇を表現する素晴らしいブラックジョークのシーンである。

ヴィアンの音楽作品にももちろんブラックジョークの場面が多い。例えば彼のシャンソン作品『僕はスノッブ(J'suis snob)』である。曲全体はスイングとバラードが交替して進行し、テンポも速くなったり、遅くなったりする状態であり、スノッブの若者たちの激情があり、ロマンチックな夢もある生活をはっきり描写している。しかし、華やかな生活は彼らの無知を覆い隠すことができない。「イタリアのネクタイを付けるが、虫に食われたスーツも着ている。上品な人みたいに映画館に行ったが、わからないスウェーデンの映画を見ていた。毎日馬に乗るが、実は馬糞の匂いが好きなのである。男爵夫人しか訪ねないが、相手の名前がトロンボーンみたいと思っていた」など、当時のスノッブたちをユーモアたっぷりに皮肉っている。歌詞の最後でスノッブの「僕」はジャガー乗車中に事故に遭う。死ぬ前の最後の一言「ディオールのシュラウド²がほ

2 死体を覆う白い布。

えい はく ● 中国・寧夏回族自治区・銀川市出身。静岡大学卒。ソルボンヌ大学博士課程に入学する予定。
ジャズ中毒、フランス派超現実主義バスケット選手である。



トランペットを吹くヴィアン ～『ボリス・ヴィアン伝』●J116-898 より～

しい』(原文:J'veux un suaire de Dior.)はスノッブの人が既に救いようがないところまで来ているといった失望を表現している。この泣くに泣けず、笑うに笑えない書き方は皆の微苦笑を誘ったが、スノッブを蔓延らせるような社会のありように対しても人々の問題意識を向かわせるものでもあった。

終わりに

改めて振り返ると、ボリス・ヴィアンは作家として世界中で有名であるが、フレンチ・ジャズの歴史でも一翼を担った人物である。彼の文学と音楽に対する理念は時代の環境の下、絶えず変化しており、時に過激であったが、やがてフランスの文壇と音楽界の発展を後押しし、不滅の功績を打ち立てた。そして、ボリス・ヴィアンの文学創作と音楽創作における共通点は非常に多い。それはヴィアン自身の価値観、人生観、世界観と関わる。のみならず、歴史観や社会観などの観念から考察すればまた別の結論を得ることができるとも思われる。しかし本研究においては主に内容と構造からヴィアンのナラティヴを分析することを通して、彼の作品創作のイメージは進歩的であり、且つ感情を自由に表現することができ、現実の束縛を打破できるものであることをよりはっきりと理解することができた。

興味があれば、ぜひボリス・ヴィアンの文学作品と音楽作品を楽しんで欲しい。

<参考文献>

- *『間テクスト性:文学・文化研究の新展開』グレアム・アレン著 森田孟訳 研究社 2002 ●当館未所蔵 TAC:東京外国語大学ほか
- *『「語り」の諸相:演劇・小説・文化とナラティヴ(研究叢書 中央大学人文科学研究所編;45)』中央大学出版部 2009 ●当館未所蔵 TAC:ICUほか
- *『ボリス・ヴィアン伝』フィリップ・ボジジョ著 浜本正文訳 国書刊行会 2009 請求番号●J116-898
- *『蟻(しびれ)』ボリス・ヴィアン著 なた・いなだ訳 『ブラック・ユーモア選集 第6巻 外国篇:短篇集』早川書房 1976 ●当館未所蔵 TAC:東京経済大学

風景の中で ④

図書館長 井上 郷子

冬の気配が漂う昨年11月、私はチェコ共和国の首都プラハにいました。チェコは多くの優れた音楽家を輩出した国です。今回はほぼ毎年秋に開催されている現代音楽祭に招かれたのですが、中世の風情が残るこの美しい街を心から楽しみました。音楽祭が催された場所は、ヴルタヴァ川(モルダウ川)で挟まれたホレショヴィツェ地区にある「DOX centre for contemporary art」で、美術館とホールがある建物から成っています。DOXの建物の壁には、「フルクサス」関連のアーティスト、ロベール・フィリュウの言葉「Art is what makes life more interesting than art」など含蓄に富む短い文がいくつも記され、歩いていると躍動する文字が目飛び込んできます。ここで自分たちの芸術を作っていくのだ、という情熱と心意気、自負心が直截に感じられ、何ともわくわくしました。偶然、リハーサル中のドイツのグループの演奏を聴きましたが、言葉と声、楽器、エレクトロニクスによるパフォーマンスは、作曲、演奏ともに細部まで練り込まれた非常にレベルの高いもので、本番はさぞかし聴き応えがあったことでしょう。私の公演はソロリサイタルで、近藤譲さんのピアノ曲を2曲、モートン・フェルドマン作品、チェコの

作曲家、ルボシュ・ムルクヴィチカのピアノ曲の初演をしました。

海外公演の際には、本番までの練習のマネジメントがとても大事です。今回はプラハ音楽アカデミーが練習室を用意してくださいました。ピアノはホールでも音楽アカデミーでもペトロフというチェコのメーカーのピアノで、タッチも音色も独特、音楽祭のスタッフも作曲家も「いいだろ、ペトロフは。チェコメイドなんだぞ」と嬉しそうに自慢げに私に語っていました。

アカデミーの部屋の窓からは広場を挟んで、モーツァルトが弾いたオルガンがある教会が見えます。かつてのプラハの人々はモーツァルトに対して温かく接し、「ドン・ジョヴァンニ」の初演も1787年、スタヴォフスケ劇場(エステート劇場)で作曲者自身の指揮によって行われました。彼のオペラは今もこの劇場の主要なレパートリーです。

たった1週間の滞在でしたが、歴史を誇りに思うとともに今自分たちが作っていく音楽を尊び、楽しむという懐の深さを持つ人々と出会い、地に足が着いた豊かな人間の営みといったものを垣間見た思いがしています。

資料の部屋 ④

図書館員
高橋 京子

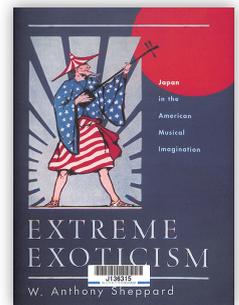
皆さんそれぞれ新しい学年になり、夢や希望に胸膨らませ、また卒業後の進路など将来の事と向き合っている時期でしょうか。さて今回は、洋書の新刊をご紹介します。外国語と見ただけで遠ざけたい、私も学生時代は思いました。でもちょっと興味もありますよね。異文化を知る大きな手掛かりとなる事は、間違いありません。

選んだ本は、まず表紙に目を引かれました。アメリカで出版された楽譜の表紙をデザインしたもので、星条旗柄の衣装を着た人物が三味線を弾いています。タイトルは『Extreme Exoticism』、直訳すると「極端な異国情緒」となります。サブタイトルに、「Japan in the American Musical Imagination」とあります。意識すると「アメリカ音楽と想像の日本」となるでしょうか。

内容は、アメリカにおける「日本の音楽」受容史といったところです。ヨーロッパでは、19世紀後半から20世紀初頭「ジャポニスム(Japonisme仏語) = 日本趣味」が話題になり、多くの芸術家の表現へと結びつきました。よくドビュッシーの前奏曲集など例にあげ

られますね。同時代のアメリカ人にとっても、日本の文化は「エキゾチック(exotic)」なものだった事でしょう。ハリウッド映画が、日本の印象や音楽を広めた事、日系二世の音楽家の活躍についても触れられています。目次の後に「Glossary of Japanese Musical, Theatrical, and Aesthetic Terms」として、この本に出てくる日本の音楽や美学に関する用語一覧があります。それぞれ、1行で特徴が分かり易く解説されています。付録には、1815~1940年にアメリカで作曲された「日本」と関連している作品が一覧できるようになっています。タイトルに“Japan”と入っているものばかりではありません。本文を読むのが…という方は、こういったリストを見るだけでも面白いでしょう。

『Extreme Exoticism: Japan in the American Musical Imagination』
Sheppard, W. Anthony
Oxford University Press 2019
請求番号●J136-315



たかはし きょうこ ● 今年は、日本文化を意識したイベントが多いですね。是非、この機会に経験、体験してみましよう！



Parlando

ばるらんど

2019 総目次 302 ~ 305

表紙：高柳涼香 武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科4年

- 302
- 【巻頭エッセー】“源泉”を見出すということ…図書館長 井上郷子 ●表紙
 - Welcome to our Library ●2 ~ 3
 - 先輩からのメッセージ～新入生の皆さんへ～ ●4
 - 2018年度ばるらんど総目次 ●5
 - 【卒論報告】デオダ・ド・セヴラックと地域主義…横屋藍 ●6 ~ 7
 - Information ●8
- 303
- 【巻頭エッセー】調べ物は楽し…雲井雅人 ●表紙
 - Library Data 2018 ●2 ~ 5
 - 風景の中で①…図書館長 井上郷子 / 資料の部屋①…柄田明美 ●6
 - 【私のおすすめ】…高根しおん 黒沼佳那 ●7
 - Information ●8
- 304
- 【巻頭エッセー】図書館に架ける橋…蔭山真美子 ●表紙
 - 【Parlando Interview】国音は結（ゆい）の世界
久元祐子先生 きき手・關音々子 ●2 ~ 5
 - 風景の中で②…図書館長 井上郷子 / 資料の部屋②…宇田川もも ●6
 - 【私のおすすめ】…坂本光太 花岡美伶 ●7
 - Information ●8
- 305
- 【巻頭エッセー】高等遊民の至福／悪夢…松岡新一郎 ●表紙
 - 【研究発表会】現代の音楽文化 ●2 ~ 3
 - 【Question box】…樋口真規子 ●4
 - 新 OPAC 活用術！その2…森岡倫子 ●5
 - 風景の中で③…図書館長 井上郷子 / 資料の部屋③…高田涼子 ●6
 - 【私のおすすめ】…高德眞理 高河誠太郎 ●7
 - Information ●8

基礎ゼミ施設体験実習・図書館

新入生のための基礎ゼミ施設体験実習が、学科別で4月7日(火)・8日(水)に行われます。この期間は、全館を使っての実習となりますので、図書館はご利用できません。

TAC(多摩アカデミックコンソーシアム)を利用しよう

OPACをみても見つからない資料がある時は、あきらめないで、TAC加盟館(国際基督教大学、武蔵野美術大学、東京経済大学、東京外国語大学、津田塾大学)の図書館資料をTACOPACで調べましょう。所蔵していればTLLサービス(図書館間貸出)で取り寄せてきます。通常、申込から1週間位で資料が到着します。詳細はメインカウンターでお尋ねください。

督促・予約メール確認のお願い

学内者(学生、大学院生、教職員)には、学内メールアドレス宛に、督促状・予約状を送信しています。返却期限を過ぎた資料を、次の利用者が予約して待っているかもしれません。毎日必ず、学内メールアドレスを確認してください。

卒業生の方へ

図書館は卒業してからも登録すれば利用できます。利用の種類や方法については、「図書館ガイド:卒業生利用者用」や図書館ホームページをご覧ください。詳しくはメインカウンターでお尋ねください。住所が変わった方は登録時に併せてお伝えください。また、メールアドレスは学内メールアドレス以外のものに切り替えをお願いします。

今年の表紙は?

306号から表紙絵が変わりました。武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科3年 原怜那さんの作品です。

作品についてのコメント

まず私にとって本は時間を忘れてどんどん没頭していき一体化するような気持ちにさせてくれる存在です。そんなズブズブと本に入っていく読み手達を表現してみました。私自身本とは何かを改めて考えられる機会でした。

図書館活動報告**<イベント>****ライブラリー・レクチャー vol.4**

「パリ音楽院声楽科教授・エティッシュ委嘱のヴォカリーズに迫る」
12月10日(火) 18:30~19:30

20世紀前半、パリ音楽院の初見試験用に様々な作曲家に委嘱したエティッシュとは、どんな人物だったのでしょうか?また、今では顧みられることのないこのヴォカリーズたちを、雲井雅人先生・大学院博士課程学生のサクソフォンとクラリネットによる再演と解説でご紹介しました。

ライブラリー・レクチャー vol.5

「室内楽で聴くベートーヴェン交響曲第5番『運命』作品67」～大正から昭和時代に遺されたピース譜から～
12月16日(月) 18:00~19:00

有名なベートーヴェンの交響曲第5番 op.67『運命』にはカルテット版をはじめ、様々な編曲が存在するのをご存知ですか?図書館ではこれらの貴重な楽譜を所蔵しています。沼口隆先生による解説で楽譜を読み解き、長い間再現されなかった楽譜を、沢田千秋先生と学部学生たちの演奏により音としてご紹介しました。

<大学イベント対応@図書館>

12月24日(火)~27日(金) 冬期受験準備講習会

図書館2階ライブラリーホールに受験生のための情報コーナーを設置しました。楽譜展示や視聴スペースを設け、受験生や保護者の方に見学していただきました。

<展示・企画棚>**かわいそうな資料展**

11月6日(水)~11月22日(金)

図書館の資料はみんなの財産です。繰り返しの利用や時間の経過によって傷んでいくのは避けられないことですが、故意や不注意で突然使えなくなってしまった資料もあります。次に使う人のために、資料を大切に扱きましょう。

音楽情報専修、音楽情報・社会コース学生展示**『現代の音楽文化』**

11月25日(月)~12月27日(金)

切っても切り離せない関係となってきている『インターネットと音楽産業』。人々の感情を動かす最高の組み合わせだと言える『映像と音楽』。現代の音楽文化について、2つの分野に分かれ調べた際に、集めた関連資料の一端をご紹介しました。

「歓喜の歌」その旋律のルーツとは - ベートーヴェン生誕250周年記念展示 -

1月20日(月)~3月30日(月)

2020年はベートーヴェンの生誕250年にあたります。彼の代表曲であり、日本でも年末の風物詩として親しまれている「第九」。その「歓喜の歌」の旋律のルーツとなるのではないかと考えられる作品について、当館が所蔵するベートーヴェンコレクションの中から、貴重楽譜を沼口隆先生の解説でご紹介しました。

- 表紙：原怜那 武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科3年
- 発行：国立音楽大学附属図書館
- 編集担当：高橋京子・宮部真砂子

- 国立音楽大学附属図書館
- https://www.lib.kunitachi.ac.jp
- E-mail info_lib@kunitachi.ac.jp